

古文 重要単語 まる見え1枚シート

古文単語は「意味グループ」でまとめて覚えると一気に定着します。1語に訳を2〜3個、現代語との「ズレ」に注意して読み解きましょう。

★★★ 入試超頻出

★★ よく出る

★ 余裕があれば

💡 覚え方

▶ 例文

① プラス感情

② マイナス感情

③ 程度・評価

④ 敬語

⑤ 動作・状態の動詞

⑥ 時・副詞ほか

まず感情語＝「心の動き」を表す形容詞から固めると、主人公の気持ちが一気に見えます。多義語には **注意マーク△**。

読む順：左の列を上から順に ▶ 終わったら 右の列へ（見出しの番号が順番です）

1 プラス感情・好ましい気持ち

古語	主要な訳	頻出
あはれ(なり)	しみじみと心打たれる／趣がある／かわいそうだ	★★★
をかし	趣がある／興味をひかれる／こっけいだ・おもしろい	★★★
めでたし	すばらしい／立派だ／みごとだ	★★★
うつくし	かわいい・いとしい(※「美しい」ではない)	★★★
らうたし	かわいらしい・いとしい(守ってやりたい感じ)	★★
なつかし	心がひかれる・慕わしい(※「懐かしい」ではない)	★★
ゆかし	見たい・知りたい・聞きたい／心がひかれる	★★★
まめなり	まじめだ・誠実だ／実用的だ	★★
あらまほし	理想的だ・望ましい(「あり+まほし」=こうありたい)	★★

💡 「うつくし」「らうたし」「なつかし」は現代語とズレる三大語！「美しい」ではなくかわいい、「懐かしい」ではなく心がひかれる。ここを訳でひっかけるのが入試の定番。

▶ 例文：うつくしきもの、瓜にかきたるちごの顔。→かわいらしいもの、瓜に描いた幼児の顔。

▶ 例文：「ゆかしがる」とは見たく・知りたく思うこと → 心がひかれて見たい・知りたく思う。

2 マイナス感情・不快な気持ち

古語	主要な訳	頻出
わびし	つらい・やりきれない／さびしい／興ざめだ	★★★
さうごうし	もの足りない・物さびしい(あるべきものが無い)	★★
つれづれ(なり)	退屈だ・手持ちぶさただ／しんみりとも寂しい	★★★
心もとなし	待ち遠しい／じれったい・不安だ／ぼんやりしている	★★★
おぼつかなし	気がかりだ・心配だ／はっきりしない・ぼんやり	★★
うし(憂し)	つらい・いやだ・憂鬱だ	★★★
わるし	よくない・好ましくない(悪い〜普通の間)	★★
あさまし	驚きあきれる(良くも悪くも)／興ざめだ・情けない	★★★
あやし	△不思議だ・妙だ／(賤し)身分が低い・粗末だ	★★★
むつかし	不快だ・うっとうしい／面倒だ(※「難しい」ではない)	★★
くちをし	残念だ・もの足りない・がっかりだ	★★★
すさまじ	興ざめだ・殺風景だ・場違いだ	★★

💡 「わるし」は段階で覚える。よし(良い) > よろし(まあ良い) > わろし(よくない) > あし(悪い)。4段階のうち上から3番目。

💡 「あやし」は漢字で見分ける。「怪し・奇し」=不思議、「賤し」=身分が低い・みすばらしい。文脈で判断！

▶ 例文：つれづれなるままに、日暮らし硯にむかひて。→ することもなく退屈なのにまかせて、一日中硯に向かひて。

3 程度・評価を表す語

古語	主要な訳	頻出
いみじ	△程度がはなはだしい→(良)すばらしい／(悪)ひどい	★★★
ゆゆし	不吉だ・恐れ多い／(程度が)はなはだしい・すばらしい	★★
やさし	△きまり悪い・恥ずかしい／優美だ・上品だ／けなげだ	★★
はづかし	△(相手が)立派でこちらが気おくれする／きまり悪い	★★★
ありがたし	めったにない・珍しい／(めったにないほど)すばらしい・もったいない(※「感謝」ではない)	★★★
めづらし	すばらしい・賞賛したい／めったにない・新鮮だ	★★
おどろおどろし	大げさだ・ぎょうぎょうしい／気味が悪い・恐ろしい	★
いたづらなり	むだだ・むなし／何もすることがない・ひまだ	★★

💡 「いみじ」は良い・悪い両方！本来は「程度がはなはだしい」だけ。あとは文脈で「すばらしい」か「ひどい」かを判断。いみじう=とても(副詞的)も頻出。

💡 「はづかし」は“こちらが恥ずかしくなるほど相手が立派”。「はづかしき人」=こちらが気おくれするほど立派な人。「恥ずかしい人」ではない！

▶ 例文：ありがたきもの、男にほめらるる婿。→ めったにないもの、男にほめられる婿。

4 敬語(尊敬・謙譲・丁寧)

尊敬語=目上の動作を高める		謙譲・丁寧=自分を低める/です・ます	
古語	訳	古語	訳
おはす/おはします	いらっしゃる(「あり・行く・来」の尊敬)	さぶらふ/候ふ・侍り	お仕える(丁寧)あります・ごぞいます
のたまふ/のたまはす	おっしゃる(「言ふ」の尊敬)	まうす(申す)	申し上げる(「言ふ」の謙譲)
たまふ(四段)	お与えになる/へなさる(尊敬の補助動詞)	たまふ(下二段)	～ております(謙譲の補助動詞・会話文中心)
めす(召す)	お呼びになる・お取り寄せになる・召し上がる	たてまつる	差し上げる(補助)お～申し上げる
ごらんず	ご覧になる(「見る」の尊敬)	まゐる(参る)	参上する・差し上げる・召し上がる
きこしめす	お聞きになる・召し上がる・お治めになる	うけたまはる	お聞きする・お受けする(「聞く・受く」の謙譲)

💡 「たまふ」は活用で意味が逆転！四段活用=尊敬(へなさる) / 下二段活用=謙譲(～ております)。下二段は「思ふ・見る・聞く・知る」など知覚・思考の動詞に付き、「たまへ」と命令・已然になるので見分けやすい。

5 動作・状態を表す重要動詞

古語	主要な訳	頻出
おどろく	はっと気づく・目を覚ます(※「驚く」だけではない)	★★★
おこたる	病気がよくなる・治る／なまける	★★
ねんず(念ず)	祈る／じっと我慢する・こらえる	★★★
ながむ	もの思いにふける・物思いをする／(眺む)遠くを見る	★★
わづらふ	病気になる／思い悩む	★★
ののしる	大声で騒ぐ・評判になる(※「罵る」だけではない)	★★
ありく	歩き回る・あちこち動き回る	★

▶ 例文：夢に見えつるにおどろきて → 夢に見たことではっと目を覚まして。

▶ 例文：心の中に念じて → 心の中でじっとこらえて。

6 時・程度・呼応の副詞ほか

古語	主要な訳	頻出
▼ 時を表す		
あした(朝)	朝・翌朝(※「明日」ではない)	★★★
つとめて	早朝／(何かの)翌朝	★★★
ゆふべ/よひ	夕方/宵・夜のはじめ	★★
ありあけ	明け方(夜明けにまだ月が残る頃)	★
▼ 副詞・呼応の語		
やがて	そのまま/すぐに(※「やがて=のちに」ではない)	★★★
さすがに	そうはいってもやはり・とはいえやはり	★★
なかなか	かえって・むしろ/中途半端だ	★★★
げに	本当に・なるほど・いかにも	★★★
いと/いとど	たいそう・非常に／(いとど)いっそう・ますます	★★★
え～(打消)	(打消を伴い)～できない	★★★
な～そ	(禁止)～してくれるな・～するな	★★
つゆ/さらに～(打消)	少しも・まったく～ない	★★
▼ 状態・その他		
つきづきし	似つかわしい・ふさわしい・調和している	★★
あへなし	どうしようもない・はりあいが無い・あつけない	★
いたはし	気の毒だ・大切に世話したい／(病で)つらい	★

💡 「あした」と「つとめて」はセットで。「あした=朝」「ゆふべ=夕方」が対。「つとめて」は早朝か、何か出来事があった翌朝。

💡 呼応の副詞は“相方”ごと暗記。「え～ず(できない)」「な～そ(するな)」「つゆ・さらに～なし(少しも～ない)」。下にどんな語が来るかまでセットで覚える。

▶ 例文：冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず。→ 冬は早朝(がよい)。雪が降っているのは言うまでもない。

▶ 例文：え言はず。→ 言うことができない。(「え+打消」で不可能)